

神様はじめました 第1期 第9話

タイトル: 神様、竜宮城に行く

キャラ リスト:

桃園 奈々生、巴衛、瑞希、龍王・宿儺、亀姫、磯姫、雪路、亀、ウミウシたち、ナレーター

Japanese script from Netflix subtitles (jimaku.cc)

English translation from Gogoanime subtitles

Transcribed and organized by Kiriban

ナレーター 時廻りの香炉で過去へ飛んだ奈々生は、今まさに、龍王から右目を奪ってきた巴衛と遭遇。
目の前にいるのはまだ、奈々生の知らない野狐の巴衛。

巴衛 フツ…。

奈々生 (考え) あれが、龍王の目。

あつ…。

うああっ！

あっ、待って！

巴衛！

あっ…うっ…。

(考え) 巴衛が行っちゃう！

わあっ！

瑞希 走って追いつくわけないでしょう？ 奈々生ちゃんって本当に土地神様？

奈々生 すみません。

(考え) そうだね。この時代の巴衛が私のこと知ってるはずないんだった。

巴衛...どこに行く気なのかな？

瑞希 うーん、龍王の目をさかかなに、アジトで宴会ってとこじゃない？

奈々生 龍王の目、取り返さなきゃ！何とか巴衛に事情を説明すれば...

瑞希 ばかだな。そんなの聞くわけじゃないか。

隙を見て盗むしかないよ。君がね？

奈々生 盗む...

あの家...

瑞希 だね。

雪路 潮の香りがする。海まで薬を買いに行っていたのか？

巴衛 ああ。

おかげで良い薬が手に入った。

これを飲めば、お前の病もきっと良くなる。

雪路...ずっと...俺と生きよう。

奈々生 あっ...んっ...

(考え) 同じ顔...同じ声なのに...こんな巴衛...私は知らない。

(考え) 全ては...あの人のために支払った代償だったんだ。

(考え) きれいな人...

瑞希 (考え) 奈々生ちゃんは、誰かを妬ましく思ったことはない？僕と同じように...

巴衛 これでは飲みにくかろう。せっかくの良い薬だ。これに見合う清水をくんできてやる。しばし待て。

奈々生 あっ...

瑞希 奈々生ちゃん、龍王の目を取り返すんでしょ？

奈々生 あっ…。

雪路 んっ…ああっ…。

瑞希 (考え) そうだよ、奈々生ちゃん。僕だったらしくじったりしない。だってその女は目障りなもの。

奈々生 あっ…んっ…。

 しっかり！

 これを飲めば大丈夫だから！

瑞希 あっ…！

奈々生 さあ。

 あっ…。

瑞希 何してんの、奈々生ちゃん！

奈々生 瑞希！

瑞希 龍王の目、取り返しに来たのに、あげてどうするの！

奈々生 だって…。

瑞希 その娘を助けて後悔することになってもいいの？

奈々生 私だって…巴衛のこと助けたい。でも…目の前で苦しんでる人を…見殺しにはできないよ！だから…。

 ありがとう、瑞希。

瑞希 (考え) どうして…。

奈々生 雪路さん。

雪路 ハア…。

奈々生 よかった。治まったみたいね。

瑞希 行こう、奈々生ちゃん。実体での時廻りは、長くはもたない。

 時間切れだ。

奈々生 (考え) 過去に付けを払わせちゃ駄目だ。

(考え) 今の付けは、今で払わなきゃ。

(考え) 巴衛…。

奈々生 あっ…。

瑞希 おかえり。

奈々生 あっ…瑞希！

いったたた…。

瑞希 急に動かないほうがいいよ。体痛いでしょ？

生身で時廻りした代償ってやつ。それで、これからどうする気？

奈々生 過去で会った磯姫に…この時代でもう一度会えないかな。

瑞希 磯姫に？会ってどうするのさ。

奈々生 彼女、確かにこう言ったの。

磯姫 (過去) お前の中にあるその龍王の目、私にくれたらあげてもいいよ。

奈々生 私の中に龍王の目があるって…それを着物と交換しないかって。

(考え) それが…巴衛を救える鍵になるかも。

男性 姉ちゃん、こんな洞窟で店開いてんのか？

磯姫 深夜限定でね？この実を食わせれば、どんな女も意のままだよ。

そうだね…あんたの着けてる金の指輪となら、交換して…。

ハッ…えっ？えっ？えっ？ええ一つ！

男性たち うわあっ！

な…何だ！満潮か！

やっべえ！戻ろうぜ！

磯姫 ああっ...あっ！ちょっと！

瑞希 500年前と変わらないね。

磯姫 んっ...。

瑞希 おかげで捜すの楽だったけど。

磯姫 何だ、あんたたち！

奈々生 磯姫、取り引きしたいの。

磯姫 ああ？

何だって～？龍王の目を、私にくれるって？

どこ？どこにあんの？

奈々生 な...何かこの人、500年前とテンションが違う！

そうじゃなくて！

磯姫 ううっ...。

奈々生 私の中に龍王の目があるのなら...それを取り出してほしいの。

磯姫 どれ。

なるほど。確かに随分削れて小さいけど、それらしき物は体内に見えるわね。

奈々生 本当に？

磯姫 こう見えて私の目は確かなの。

いいよ。代わりにあんたの何をくれる？

奈々生 何でも！私にあげられるものなら！

磯姫 そう？

じゃあ、あんたの寿命30年分でどうだ！出血大サービスだよ！

瑞希 アハハッ！30年とは随分吹っかけるね。

磯姫 あっ…。

瑞希 そんなやつ信用することないよ、奈々生ちゃん。

磯姫 じゃあ、お前に取れんのかい？玉の場所も分からないくせに！

私の両目は千里眼。見えない物なんかないんだよ。

神使崩れの蛇坊やは引っ込んでな。

瑞希 くっ…。

奈々生 いいわ。30年分の寿命で取り引きしましょう。

瑞希 なっ！

磯姫 う～ん！話が分かるじゃないの～！

奈々生 んっ…。

瑞希 奈々生ちゃん！

やめなよ…。

奈々生 大丈夫。

若いんだから。30年くらい持っていかれたって私、死んだりしないよ！

でも、巴衛にはもう1日しかないから。

瑞希 (考え) ばかだよ…何にもできないくせに、どうしてそっちに行っちゃうかな？

(考え) 手に負えないことばかり引き受けて…もう、つきあいきれないや。

磯姫 さあ、横になんな。

さてと、寿命は後払いにしてあげるよ。

力を抜いて。すぐ終わるから。

奈々生 あっ！うっ…。

ううっ…。

磯姫 フフツ…私の両目は千里眼。

寿命なんかより、もっといい物をお前が持つてることなんかお見通しだよ、土地神のお嬢ちゃん！

アーツハツハツハツ！土地神のみ霊と龍王の目！磯姫頂戴！

瑞希 ほらね。だから言ったのにさ。

磯姫 うっ…。

瑞希 僕の言うこと聞いてればよかったでしょ？奈々生ちゃん。

磯姫 うっ！

瑞希 巴衛君は自業自得。君が肩代わりする必要なかなかったのに、本当に奈々生ちゃんは、僕なんかじゃ及びもつかない。

(考え) 手足になる神使もいず、人の身で、誰かを守ろうというのなら、もう一度お仕えしよう。

(考え) これが僕の…最上級の敬意。

(考え) 心の澱が消えていく…。

磯姫 お前…どうして…。

ハツ！

瑞希 (考え) 彼女のそばにいれば…

磯姫 ハツ…。

瑞希 (考え) …僕は…もう一度僕になれる。

奈々生 んっ…うーん…。

瑞希 僕の新しいご主人様。

奈々生 ん？

瑞希 お目覚めはいかが？

奈々生 えっ？

瑞希 今日からこの瑞希は、奈々生ちゃんの神使になりました～！

巴衛君なんか吹き飛ばすくらい、役に立っちゃうよ！

奈々生 ん？何？ま…待って待って。どういうこと？

瑞希 だから、僕がね…。

磯姫 うっ！

瑞希 磯姫、僕の主人に手を出したからにはさ、このままで済むと思ってないよね？

磯姫 えーっ？

奈々生 瑞希！

殺しちゃ駄目！

瑞希 あっ…。

(考え) 言霊縛りは…絶対服従の印…。

(考え) 甘いしびれ…神に支配されているという快感…。

たまらない！もっと言って、奈々生ちゃん！その見えない鎖で僕を縛って！

奈々生 ひどいわ、瑞希！つまり私が寝ている間に勝手にキスしたってこと？痴漢！強制わいせつ！

瑞希 何かずれてるけど、状況は分かってるみたいでよかったよ…。

奈々生 これが龍王の目？

こんなパチンコ玉みたいなのが…。

瑞希 形はどうあれ、龍王の目には違いないし、さっさと龍王に返しちゃおうよ。にしても磯姫のやつ…。

磯姫 (過去) 何も取らなかったんだから、これでチャラにしてよね！

瑞希 竜宮行きの乗車券だってさ。こんなので許しちゃうなんて甘いよ、奈々生ちゃん。

奈々生 私は瑞希が何もしなくてほっとしてるよ。

瑞希 神使は、主人の前で殺生なんかしないよ？

 巴衛君もきっと同じ。

 (考え) 奈々生ちゃんの前では、手を汚したくないのさ。

魚人たち 龍王様！

 大変でございます！

宿儺 うるせえぞ！計算中は静かにしろ！

魚人 宴会場に設置した白蝶貝が！

宿儺 (考え) んっ...巴衛が？

巴衛 やれやれ...肉に包まれる感触が懐かしくて、ついまどろんでしまった。

 久しぶりだったな、龍王。奈々生の目の前でよくも顔を出してくれたものだ。

宿儺 なっ...あっ...。

巴衛 主人の前で血生臭いことはできんのでな。

 場所を改めさせてもらったぞ。

奈々生 わあ、すごい！

 竜宮城って、本当に亀に乗って行くのね。

瑞希 奈々生ちゃん、そのガラス水以外は通り抜けちゃうから気を付けてって...。

奈々生 (考え) これで巴衛を助けられる。

 (考え) 巴衛に会える。今の巴衛に...やっとな...。

 あっ...。

 (考え) あれ？何だろう、私...。

 あっ...。

瑞希。

瑞希 ん？何？

奈々生 巴衛は...雪路さんのこと...まだ好きなのかな。

私...会うのが少し怖いんだ。

(考え) きっと比べちゃう。あの人には、もっと優しくったのに...あの人にはもっと必死だったのに...私には...触れてもくれない。

(考え) 駄目だ！それどころじゃないのに、思考がどんどん後ろ向きに！

瑞希 行くのやめちゃう？

奈々生 何でそうなんのよ。

瑞希 だって奈々生ちゃん気が乗らないみたいだから。

奈々生 どうしたの、亀タク？

亀タク 途中乗車のお客様です。

亀姫 同乗失礼します。

奈々生 龍族の人？

瑞希 こんにちは。

奈々生 こ...こちらこそ、よろしくです...。

(考え) いかん！自分以外の女性が全員美の女神に見える！

亀姫 陸の神が、竜宮に何の御用向きなのですか？

奈々生 えっと...いろいろあって...大事な人が質草になってるんで、迎えに行くんです。

亀姫 まあ、それは大変。彼もきっと待っていることでしょう。

私も、いとしい夫に会いに竜宮に行くところです。

お互い、早く会いたいものですね。

奈々生 わあ、きれいな刺しゅう。それ何ですか？

亀姫 会えない日はそうやって、思いを紡いでいくのです。

これはあの人に作った羽織です。7日かけて縫いました。

奈々生 (考え) なんてきれいな着物だろう。私じゃ10年かかってもこんなの作れなさそう。

亀タク わあ…。

奈々生 わあっ！

あっ…羽織が！

亀姫 あっ！

奈々生 ああっ！

瑞希 危ない！

奈々生 瑞希！奥さんの羽織が今ので飛んでいっちゃったの！捜しに行かなきゃ！

亀姫 いいえ。

奈々生 えっ？

亀姫 あの水量では、もう遠くまで流されているでしょう。

それよりも、今の水流は竜宮からの震動ではないかしら。羽織はまた作ればいい。すぐに竜宮に向かいましょう。

奈々生 でも、7日かけて作ったのに…。

亀姫 ええ。おかげでこの7日間とても幸せでした。今はそれで十分。

奈々生 私…恥ずかしいな。

亀姫 ん？

奈々生 さっきまでずっと、大事な人が自分にしてくれないことばかり考えてました。

(考え)「好いてくれない。触れてくれない。」いつから私はこんなに、受け身になってたんだろう？

奈々生 わあっ！こ…ここが竜宮城？

で...いつの間にか瑞希がいないけど...

うわっ！何！工事中？

亀姫 やはり何か起きているようですね。

ウミウシたち 亀姫様！

亀姫 ウミウシ、これは何の騒ぎですか？

ウミウシたち 捕らえたきつねが突然暴れだして、ウミウシ！

西の宮で龍王様が駆除しておられます、ウミウシ！

奈々生 と...巴衛！

宿儺 なるほど...浜で会ったときより、今のほうがずっと獣らしい。確かにその姿...あの女が見たら1000年の恋も冷めちゃうよな。

巴衛 奈々生を知っているのか？

宿儺 お前を返せって俺に食い下がってきたぜ。俺の目を取り戻して、お前と交換するとか言ってたっけな。

巴衛 何をばかなことを。あいつは土地神といっても名ばかりで何もできん。

宿儺 えっ！あの女土地神だったのか！俺はてっきりお前のじよ...！

巴衛 あれでもれっきとしたミカゲ社の土地神だ。汚れた手で、気安く触れていい女ではない。

奈々生 巴衛！

巴衛 あつ...。

奈々生 無事でよか...。

ちょ...。

どうして閉じ籠もんのよ！今更そんなところ入ったって...全部分かってんだからね！

巴衛 んっ...。

奈々生 私...過去に行って、昔の巴衛に会ったよ。

私のこと受け入れてくれなくてもいいよ。触ってくれなくても…。

巴衛が…他の人を好きでもいいよ、私は…。

うら一っ！

巴衛 うわっ！

奈々生 もう…報われるのを待ったりしない。

巴衛 さ…触…。

奈々生 振り向いてくれなくてもいいよ。

巴衛 んっ…。

奈々生 私が…振り向かせるから。

(考え) 巴衛が向き合ってくれなくても…。

私が巴衛を好きなことに変わらない。

それで…十分。

おうちに帰ろう。

宿儺 げせん。あの娘が土地神だと？どう見ても人間の小娘じゃねえか。

女官 あの、龍王様…。

宿儺 ん？

亀姫 あなた。

宿儺 ぎくっ！

亀姫 この竜宮のありさまは一体どういうことですか？

宿儺 か…亀姫、実家に帰ってたんじゃ…。

奈々生 うそ！龍王の奥さん？

亀姫 懲りもせずに、また野狐の相手などして…右目を奪われたとき今後一切顔には傷を作らぬと、約束したのを忘れましたか？

宿儺 待て！これには訳が！

こ...この土地神が俺の右目を返しに来たんだ。なあ、土地神！な？なあ？

奈々生 えっ？ああ、そうそう。龍王の目...

... お返しします。

宿儺 干からびてんじゃねえか！

奈々生 そこを何とか...

宿儺 交渉不成立だ！

瑞希 それじゃあさ...

奈々生 あっ...

瑞希 ... この羽織で再交渉ってのはどうよ？

奈々生 瑞希！

宿儺 何だ、その布きれは！

そんな物で俺と取り引きしようってのか？

瑞希 これはその奥方が、あなたのために愛情を込めて作った一着。

宿儺 えー...

瑞希 それとも、こんな物ではきつねの身柄には見合いませんか？

宿儺 取り引き成立！

奈々生 瑞希！羽織拾いに行ってくれてたんだね？

宿儺 どわっ！

巴衛 どうして貴様までここにいる。

瑞希 兄神使の巴衛君が心配だったからさ。

巴衛 はあ？

瑞希 というわけで、これから一緒に社の仕事しようね、巴衛君？

巴衛 何！

奈々生

3人一緒に...うちに帰ろう！